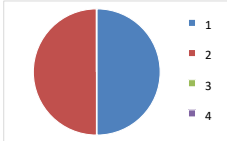
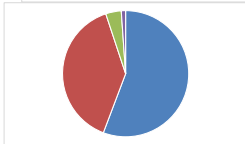
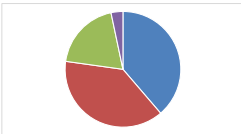
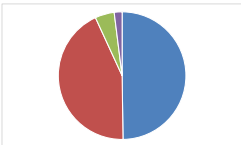
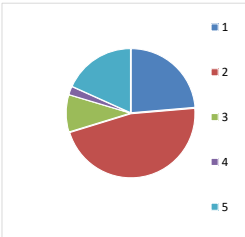
令和７年度　三国中学校　学校評価

項目	具体的取組	アンケート（設問と回答）	アンケート結果 人数	アンケート結果 割合	判定結果	R6年度	回答者
確かな学力	①基礎・基本の徹底	**授業や家庭学習を通した、基礎・基本の習得のための指導を工夫している。**	計30人		A+Bが100%	100%	教職員
		A　あてはまる。	15	50%			
		B　どちらかといえば、あてはまる。	15	50%			
		C　どちらかといえば、あてはまらない。	0	0%			
		D　あてはまらない。	0	0%			
		学校の授業にまじめに取り組んでいる。	計452人		A+Bが95%	97%	生徒
		A　あてはまる。	252	56%			
		B　どちらかといえば、あてはまる。	177	39%			
		C　どちらかといえば、あてはまらない。	18	4%			
		D　あてはまらない。	5	1%			
		学校の宿題などの家庭学習に、毎日取り組んでいる。	計452人		A+Bが77%	83%	
		A　あてはまる。	175	39%			
		B　どちらかといえば、あてはまる。	174	38%			
		C　どちらかといえば、あてはまらない。	88	19%			
		D　あてはまらない。	15	3%			
		学校の先生はわかりやすく教えてくれる。	計452人		A+Bが93%	94%	
		A　あてはまる。	225	50%			
		B　どちらかといえば、あてはまる。	196	43%			
		C　どちらかといえば、あてはまらない。	22	5%			
		D　あてはまらない。	9	2%			
		学校は、授業や家庭学習を通して、十分な学習指導を行っている。（プリントやワーク、チャレンジ学習での反復練習など）	計427人		A+Bが70%	85%	保護者
		A　あてはまる。	101	24%			
		B　どちらかといえば、あてはまる。	199	47%			
		C　どちらかといえば、あてはまらない。	40	9%			
		D　あてはまらない。	9	2%			
		E　わからない。	78	18%			

【成果】
○各教科で授業中に小テストなどの簡単な復習をしたり、適切な量の宿題を課したりすることで、基礎･基本の定着に力を入れた。
○日々の授業の中で学習規律について指導していることで、生徒たちが落ち着いて授業に臨めている。
○テスト前には効果的な勉強法や勉強のポイントについて伝え、質問会や学習会で生徒たちの質問に答えた。
【課題】
●家庭学習への意識の差があるように感じる。そのため、課題の提出が遅れる生徒や、学力の向上や学習意欲の向上につながっていない生徒も見受けられる。
●家庭学習の量や課題について、不満に思っている保護者も見受けられる。（量が不十分、不足していると感じている）

<具体策>
○引き続き基礎・基本の定着に力を入れながら、テスト前に全学年で質問会を実施する。また、各教科の効果的な学習方法について伝えていく。
○今年度は、学習をノートに手書きで行うか、ICTを用いて行うかを選択して取り組ませたものもあった。また、課題の提出がむずかしい生徒には、課題の量を生徒と相談して、調整して取り組ませた。今後も継続して、この取り組みを続けていく。

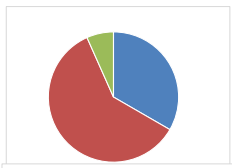
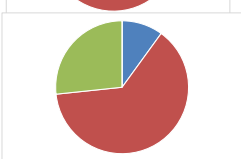
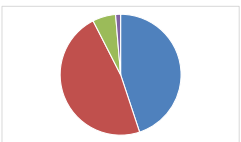
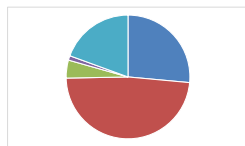


	②生徒が主体的に取り組み、考えを伝え合い、高め合う授業の実現	**生徒が、主体的に取り組み、考えを伝え合い、高め合う授業づくりに努めている。**	計30人		A+Bが93%	88%	教職員
		A　あてはまる。	10	33%			
		B　どちらかといえば、あてはまる。	18	60%			
		C　どちらかといえば、あてはまらない。	2	7%			
		D　あてはまらない。	0	0%			
		Mチームの取り組みを通して、他の教員の授業を参観し、授業に関するコミュニケーションをとっている。	計30人		A+Bが73%	68%	教職員
		A　あてはまる。	3	10%			
		B　どちらかといえば、あてはまる。	19	63%			
		C　どちらかといえば、あてはまらない。	8	27%			
		D　あてはまらない。	0	0%			
		授業に前向きに参加し、他の生徒と意見や考えを伝え合うようにしている。	計452人		A+Bが92%	94%	生徒
		A　あてはまる。	203	45%			
		B　どちらかといえば、あてはまる。	215	48%			
		C　どちらかといえば、あてはまらない。	28	6%			
		D　あてはまらない。	6	1%			
		学校は、実験や実習、タブレットなどを取り入れ、生徒の興味や意欲を高めるような授業づくりに取り組んでいる。	計427人		A+Bが75%	91%	保護者
		A　あてはまる。	113	26%			
		B　どちらかといえば、あてはまる。	206	48%			
		C　どちらかといえば、あてはまらない。	20	5%			
		D　あてはまらない。	5	1%			
		E　わからない。	83	19%			

【成果】
○教員同士の授業参観ができるようにし、その感想を伝え合ったりコミュニケーションを取ったりできるようにした。
○全校集会等で、学校の学習指導について伝え、テストごとに学習方法についてのお便りを発行した。
○タブレットを有効活用した授業を考えたり、家庭学習でもタブレットを活用して取り組めるようにした。
【課題】
●教員間に授業参観への意識の差や、多忙によるためか参観が難しい場合がある。

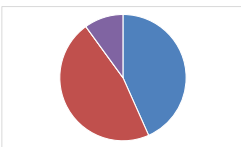
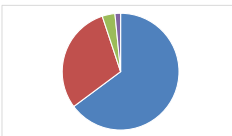
<具体策>
○タブレットの持ち帰りを推進し、ICTを使って学習に取り組める環境を整備していく。
○授業の参観をすすめ、短時間でもお互いの授業を見合ったり、授業に関するコミュニケーションを取ったりするように促す。また、タブレットを持って授業を参観し、その場で掲示板に入力するなどの方法を共有する。

	③ＩＣＴ活用と視聴覚教育の推進、情報力活用能力育成	**タブレットを活用した課題の作成、提出を各教科で実施した(する予定がある)。**	計30人		A+Bが90%	79%	教職員
		A　あてはまる。	13	43%			
		B　どちらかといえば、あてはまる。	14	47%			
		C　どちらかといえば、あてはまらない。	0	0%			
		D　あてはまらない。	3	10%			
		授業等で、タブレットを活用し、楽しみながら学習を進めることができている。	計452人		A+Bが95%	93%	生徒
		A　あてはまる。	293	65%			
		B　どちらかといえば、あてはまる。	136	30%			
		C　どちらかといえば、あてはまらない。	16	4%			
		D　あてはまらない。	7	2%			

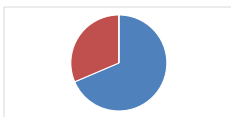
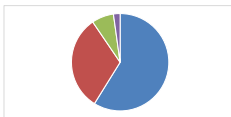
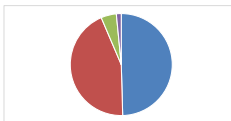
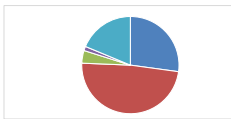
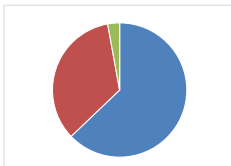
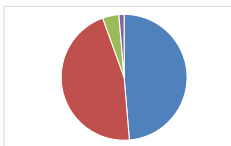
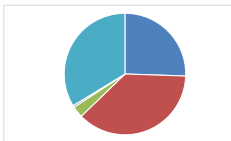
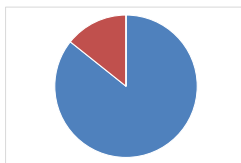
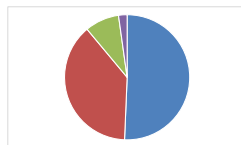
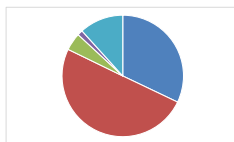
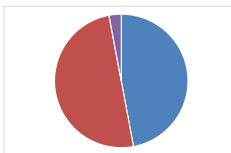
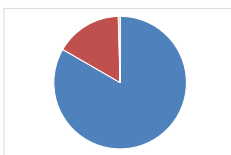
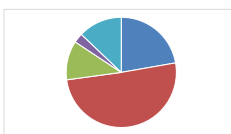
【成果】
○タブレットを有効活用した授業づくりが進み、それに伴い生徒たちもタブレットの扱いに慣れてきた。ICTを有効活用し、自分の考えを深めることができるようになってきた。
【課題】
●ICT機器を正しく扱わない生徒も出てきた。それによるトラブルも出てくるようになった。

＜具体策＞
○引き続きタブレットを有効活用した授業づくりを進めていく。
○タブレットの扱い方について生徒たちに考えさせる。決まりやルールの見直しを図る。
○情報モラル教育をさらに推進していく。

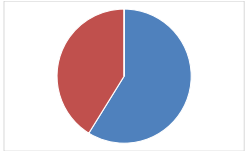
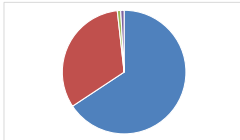
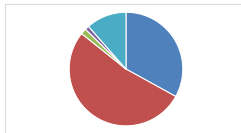
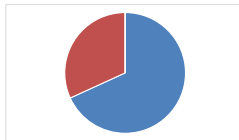
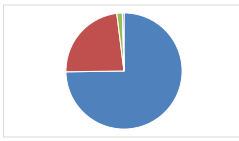
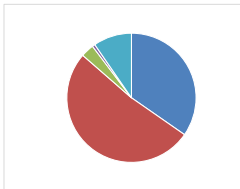
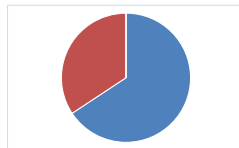
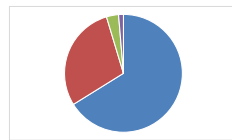
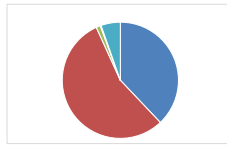



令和７年度　三国中学校　学校評価

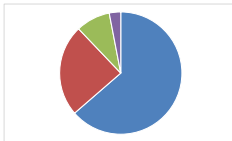
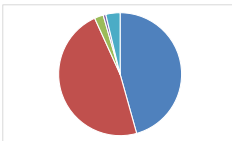
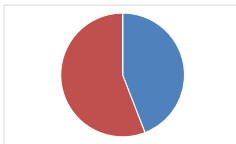
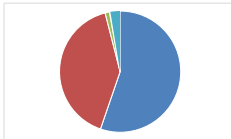
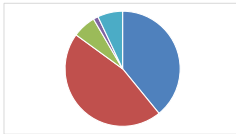
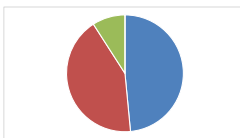
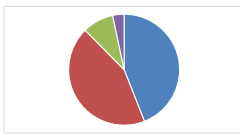
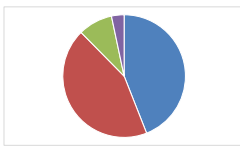
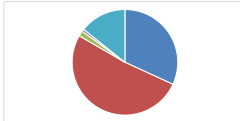
項目	具体的取組	アンケート（設問と回答）	アンケート結果 人数	アンケート結果 割合	判定結果	R6年度	回答者
豊かな人間性	①挨拶を励行し、時間を守る礼儀正しい生徒の育成	**私は挨拶、時間を守った学校生活についての指導を積極的に行っている。**	計35人		A+Bが100%	100%	教職員
		A　あてはまる	24	69%			
		B　どちらかといえば、あてはまる	11	31%			
		C　どちらかといえば、あてはまらない	0	0%			
		D　あてはまらない	0	0%			
		自分から、進んで挨拶を行っている。	計452人		A+Bが90%	95%	生徒
		A　あてはまる	266	59%			
		B　どちらかといえば、あてはまる	143	32%			
		C　どちらかといえば、あてはまらない	33	7%			
		D　あてはまらない	10	2%			
		時間を守って学校生活を送ることができている。	計452人		A+Bが94%	94%	
		A　あてはまる	224	50%			
		B　どちらかといえば、あてはまる	199	44%			
		C　どちらかといえば、あてはまらない	22	5%			
		D　あてはまらない	7	2%			
		学校は、挨拶や時間を意識した学校生活の指導を十分行っている。	計427人		A+Bが76%	96%	保護者
		A　あてはまる	116	27%			
		B　どちらかといえば、あてはまる	207	48%			
		C　どちらかといえば、あてはまらない	18	4%			
		D　あてはまらない。	6	1%			
		E　わからない。	80	19%			
		【成果】 ○どの教職員も基本的生活習慣について積極的に指導している。 ○普段からの指導が徹底しているため、来客や外部の方からは挨拶についてお褒めの言葉をいただいている。 【課題】 ●周りの雰囲気に影響される。自分から主体的に挨拶や時間厳守を実行する生徒が少ない。 ●保護者の「わからない」の回答が増えている。					
		＜具体策＞ ○教師主導ではなく委員会活動など、生徒が主体となる活動を支援していく。生徒会、部活動での朝の挨拶運動や学年委員会、生活委員会のベル着チェックなどを通して、生徒の自覚を高めていく。 ○挨拶を頑張っている生徒を紹介したり、時間厳守をしているクラスを表彰したりする企画を行っていく。 ○挨拶運動などの企画を増やすことで、参加した生徒が保護者に様子を伝えると思われる。支援部通信や学年通信などで学校の取組や支援・指導方針についての発信を強化していく。					
	②無言清掃を通し、自分を見つめ、心を磨く生徒の育成	**毎日の清掃活動（無言清掃）に、生徒が時間いっぱい意欲的に取り組む指導を十分に行っている。**	計35人		A+Bが97%	97%	教職員
		A　あてはまる	22	63%			
		B　どちらかといえば、あてはまる	12	34%			
		C　どちらかといえば、あてはまらない	1	3%			
		D　あてはまらない	0	0%			
		時間いっぱい無言清掃に取り組むことができている。	計452人		A+Bが94%	96%	生徒
		A　あてはまる	220	49%			
		B　どちらかといえば、あてはまる	207	46%			
		C　どちらかといえば、あてはまらない	19	4%			
		D　あてはまらない	6	1%			
		学校は無言清掃を通して時間いっぱいに取り組む指導をしている。	計427人		A+Bが63%	89%	保護者
		A　あてはまる	109	26%			
		B　どちらかといえば、あてはまる	159	37%			
		C　どちらかといえば、あてはまらない	13	3%			
		D　あてはまらない。	2	0%			
		E　わからない。	144	34%			
		【成果】 ○整美委員会の取組などで、教職員、生徒ともに清掃に対する意識が高まっている。 【課題】 ●保護者の「わからない」の回答が増えている。					
		＜具体策＞ ○他の委員会とも連携するなど、生徒主体の活動を増やして無言清掃を徹底できる体制を整える。 ○清掃や委員会で頑張っている様子を各種通信やHome&School等を通して発信する。また家でも掃除に取り組む姿勢を身に付けるような授業（道徳、学活）を実施する。					
	③いじめ・不登校の未然防止，早期発見・早期対応	**いじめや不登校の未然防止・早期発見・早期対応を常に意識し、迅速なチーム対応に努めている。**	計35人		A+Bが100%	97%	教職員
		A　あてはまる	30	86%			
		B　どちらかといえば、あてはまる	5	14%			
		C　どちらかといえば、あてはまらない	0	0%			
		D　あてはまらない	0	0%			
		いじめを許さず、いじめに気づいたときはすぐに誰かに相談するようにしている。	計452人		A+Bが89%	93%	生徒
		A　あてはまる	229	51%			
		B　どちらかといえば、あてはまる	173	38%			
		C　どちらかといえば、あてはまらない	40	9%			
		D　あてはまらない	10	2%			
		学校はいじめや不登校の未然防止や早期発見のために、定期的に生徒・保護者へのアンケートを行い、早期対応に努めている。	計427人		A+Bが82%	93%	保護者
		A　あてはまる	137	32%			
		B　どちらかといえば、あてはまる	214	50%			
		C　どちらかといえば、あてはまらない	20	5%			
		D　あてはまらない。	6	1%			
		E　わからない。	50	12%			
		スマホやタブレットなどを利用したインターネット上でのルールやマナーについて、指導を十分に行っている。	計34人		A+Bが97%	94%	教職員
		A　あてはまる	16	47%			
		B　どちらかといえば、あてはまる	17	50%			
		C　どちらかといえば、あてはまらない	0	0%			
		D　あてはまらない	1	3%			
		スマホやタブレットなどを利用したインターネットを利用するときに、ルールやマナーを意識して、安全に利用している。	計452人		A+Bが95%	96%	生徒
		A　あてはまる	277	83%			
		B　どちらかといえば、あてはまる	153	16%			
		C　どちらかといえば、あてはまらない	18	0%			
		D　あてはまらない	4	0%			
		学校は、スマホやタブレットなどを利用したインターネット上でのルールやマナーの指導を、保護者と協力して取り組んでいる。	計427人		A+Bが73%	82%	保護者
		A　あてはまる	95	22%			
		B　どちらかといえば、あてはまる	216	51%			
		C　どちらかといえば、あてはまらない	49	11%			
		D　あてはまらない。	12	3%			
		E　わからない。	55	13%			
		【成果】 ○いじめを積極的に認知するなど、教職員は適切かつ迅速な対応を心がけている。 ○多くの生徒が「いじめは絶対に許されない」という認識をしている。 【課題】 ●軽い気持ちで発した言葉が、相手にとっては「悪口」であり、それがいじめであるという意識が不足している。 ●学校対応に関する保護者の満足度が低めである。					
		＜具体策＞ ○今後も教育活動全体を通して「悪口＝いじめ」など、他人の人権に配慮できるような指導や支援を徹底していく。 ○苦しみを訴えた生徒に対して、教師側の寄り添う姿勢が大切だと思われる。適切な支援に関する研修を今後も行っていく。					

令和７年度　三国中学校　学校評価

項目	具体的取組	アンケート（設問と回答）	アンケート結果 人数	アンケート結果 割合	判定結果	R6年度	回答者	
健やかな体と心	①道徳授業の充実、人権を尊重し、相手を思いやり、協力する学級・学校づくり	**日々の教育活動を通して、望ましい人間関係ができるような集団づくりに努めている。**	計34人		A+Bが100%	100%	教職員	
		A　あてはまる	20	59%				
		B　どちらかといえば、あてはまる	14	41%				
		C　どちらかといえば、あてはまらない	0	0%				
		D　あてはまらない	0	0%				
		学校生活の中で、相手を思いやり、他の子と協力して、楽しく活動に取り組んでいる。	計452人		A+Bが98%	98%	生徒	
		A　あてはまる	297	66%				
		B　どちらかといえば、あてはまる	147	33%				
		C　どちらかといえば、あてはまらない	4	1%				
		D　あてはまらない	4	1%				
		学校は、学校行事、学年行事などのさまざまな機会を通して、思いやりの心や協力する気持ちを育てる集団づくりを行っている。	計427人		A+Bが86%	98%	保護者	
		A　あてはまる	141	33%				
		B　どちらかといえば、あてはまる	225	53%				
		C　どちらかといえば、あてはまらない	7	2%				
		D　あてはまらない。	5	1%				
		E　わからない。	49	11%				
		【成果】 ○道徳の授業では、教員研修を行った他、生徒自身が自他について知り互いについて理解し合う機会を工夫しながら持っている。 ○学校生活や行事を通じて、生徒自身が、集団の中での関係作りがなされていると実感している。 【課題】 ●目標指数に達しておらず、校内のさまざまな取り組みの様子について保護者への伝わりにくさが一定数あることが課題である。						
		＜具体策＞ ○道徳や人権教育で身に付けてほしい力について、活動を担当する教員が具体的に生徒に伝える機会を持ち、望ましい人間関係ができるような集団つくりをする。 ○学校生活や行事の中で、生徒たちが良好な人間関係を築けているか、毎日実施している「心の健康観察」のコメントや、定期的に行う「教育相談」から、しっかりと見取るようにする。 ○学校行事や授業の公開、Home＆Schoolでの情報配信を引き続き行うことで、保護者の理解につなげる。						
	②体験活動、ポジティブ教育を取り入れた，道徳・特別活動の充実	**道徳や特別活動、短学活の時間を活用し、一人一人が安心でき、所属感のある学級づくり、集団づくりに努めている。**	計22人		A+Bが100%	100%	教職員	
		A　あてはまる	15	68%				
		B　どちらかといえば、あてはまる	7	32%				
		C　どちらかといえば、あてはまらない	0	0%				
		D　あてはまらない	0	0%				
		学校には、自分の役割や居場所があり、みんなで活動をするのは楽しい。 （教室・委員会・部活動など）	計452人		A+Bが98%	98%	生徒	
		A　あてはまる	338	75%				
		B　どちらかといえば、あてはまる	105	23%				
		C　どちらかといえば、あてはまらない	7	2%				
		D　あてはまらない	2	0%				
		学校は、学校生活を通して、よりよい集団づくりに取り組んでいる。 （授業・委員会・学校祭・部活動など）	計427人		A+Bが86%	98%	保護者	
		A　あてはまる	148	35%				
		B　どちらかといえば、あてはまる	221	52%				
		C　どちらかといえば、あてはまらない	14	3%				
		D　あてはまらない。	3	1%				
		E　わからない。	41	10%				
		【成果】 ○生徒ひとりひとりが安心感をもって学校生活を送れるような環境づくりを意識して教育活動が行えている。 【課題】 ●多くの生徒たちが学校内に居場所があり、楽しく学校生活が送れていると自覚していることがわかる一方で、居場所がないと感じる生徒もいる。全ての生徒に対し丁寧な声掛けと見取りが重要である。 ●目標指数に達しておらず、校内のさまざまな取り組みの様子について、保護者への伝わりにくさが一定数あることが課題である。						
		＜具体策＞ ○授業や全体行事などは、教員の研究や話し合いの機会も多いが、委員会活動や部活動は個々の教育活動に委ねられていることが多いので、教員間の情報共有の機会を日常的に持つようにする。 ○自分の役割を理解し、居場所がある生徒が多いことから、引き続き丁寧な見取りと生徒支援を行う。 ○学校や学年行事における活動の様子について、学年だよりやHome&School等で積極的に保護者に発信していく。						
	③保健・安全教育と食育による健全な身体づくり	**生徒の心身の健康に注意を払い、保健・安全教育に努めている。**	計35人		A+Bが100%	100%	教職員	
		A　あてはまる	23	66%				
		B　どちらかといえば、あてはまる	12	34%				
		C　どちらかといえば、あてはまらない	0	0%				
		D　あてはまらない	0	0%				
		自分自身の心や体の健康状態に気づき、健康で安全な生活に心がけている。	計452人		A+Bが95%	95%	生徒	
		A　あてはまる	299	66%				
		B　どちらかといえば、あてはまる	132	29%				
		C　どちらかといえば、あてはまらない	15	3%				
		D　あてはまらない	6	1%				
		学校は、子どもの安全確保や健康管理のための取り組みを行っている。 （交通安全教室・街頭交通指導、健康指導、保健だより・給食だよりなどの配付やホームページへの掲載）	計427人		A+Bが93%	97%	保護者	
		A　あてはまる	162	38%				
		B　どちらかといえば、あてはまる	236	55%				
		C　どちらかといえば、あてはまらない	5	1%				
		D　あてはまらない。	1	0%				
		E　わからない。	23	5%				
		【成果】 ○生徒の健康や安全に気を配り、生徒支援を十分に行おうという意識が持てている。 【課題】 ●生徒自身の感染症予防や健康管理の意識が十分でない。 ●目標指数に達しておらず、校内のさまざまな取り組みの様子について、保護者への伝わりにくさが一定数あることが課題である。						
		＜具体策＞ ○生徒の心身の健康や安全管理について、引き続き環境整備を徹底する。 ○生徒自身の健康管理について「あてはまらない」の回答がわずかながらもいることから、日常的な声掛けや啓発活動を続けていく。 ○Home&Schoolでの情報配信を引き続き行うことで、保護者の理解につなげる。						

令和７年度　三国中学校　学校評価

項目	具体的取組	アンケート（設問と回答）	アンケート結果 人数	アンケート結果 割合	判定結果	R6年度	回答者	
信頼される学校	①学校だより，ホームページ等による積極的な情報発信	**学校だより（学年通信、生徒支援部だより、保健だより、図書館だより）やHome&Schoolを通して積極的に情報を発信している。**	計33人		A+Bが88%	95%	教職員	
		A　あてはまる。	21	64%				
		B　どちらかといえばあてはまる。	8	24%				
		C　どちらかといえばあてはまらない。	3	9%				
		D　あてはまらない。	1	3%				
		学校は、教育活動を適切に伝えている。（Home&Schoolでの配信、学年通信、生徒支援部だより、保健だより、図書館だよりなどで）	計427人		A+Bが93%	97%	保護者	
		A　あてはまる。	195	46%				
		B　どちらかといえばあてはまる。	203	48%				
		C　どちらかといえばあてはまらない。	10	2%				
		D　あてはまらない。	3	1%				
		E　わからない。	16	4%				
		【成果】 ○HPの投稿数を減らしHome&Schoolでの配信を中心にしたが、保護者の数値は大きく変化していない。 【課題】 ●教員がHome&Schoolの配信、HPの更新の様子を確認しているのかが疑問である。 ●HPの更新が減ったとの意見があった。 ●学校だよりのHPへの定期的な更新をしていることを保護者は理解しているか。						
		〈具体策〉 ○Home&SchoolとHPの内容を教職員全体に周知する。 ○フェイク画像等への悪用を防止できるHPを運営する方法を考える。 ○4月にHPのパスワードをお知らせする際に、Home&SchoolとHPの配信の主な内容を記載して、保護者への周知を図る。						
	②家庭・地域・他校種への学校公開を充実	**保護者が安心して相談できるように、保護者会やHome&School等でコミュニケーションをとっている。**	計34人		A+Bが100%	100%	教職員	
		A　あてはまる。	15	44%				
		B　どちらかといえばあてはまる。	19	56%				
		C　どちらかといえばあてはまらない。	0	0%				
		D　あてはまらない。	0	0%				
		学校は、学校行事や授業などの教育活動を、積極的に公開している。（体育祭や文化祭、学校公開による授業公開など）	計427人		A+Bが96%	99%	保護者	
		A　あてはまる。	236	55%				
		B　どちらかといえばあてはまる。	174	41%				
		C　どちらかといえばあてはまらない。	5	1%				
		D　あてはまらない。	1	0%				
		E　わからない。	11	3%				
		学校は、保護者会やHome&School等を通して、学校に相談できる体制を整えている。	計415人		A+Bが87%	—	保護者	
		A　あてはまる。	167	40%				
		B　どちらかといえばあてはまる。	196	47%				
		C　どちらかといえばあてはまらない。	28	7%				
		D　あてはまらない。	6	1%				
		E　わからない。	30	7%				
		【成果】 ○教職員は保護者とのコミュニケーションをしっかりととっている。 ○保護者から一定の理解を得ている。 【課題】 ●Home&Schoolでの連絡を見ているのか不安という意見があった。 ●緊急時の連絡（18:30以降）がつかずに困ったという意見があった。						
		〈具体策〉 ○教員が、朝の確認等を徹底する。必要であればコメントを返信する。 ○学校公開の曜日の設定等配慮する。 ○緊急時の連絡の方法、Home&Schoolの連絡済の合図など、保護者との連絡方法の確認を行い、４月に保護者に通知する。						
	③「地域と進める体験推進事業」の推進により、ふるさと三国に誇りや愛着を持つ生徒の育成	**ふるさと三国や福井に愛着を持つ生徒の育成に努めている。**	計33人		A+Bが91%	100%	教職員	
		A　あてはまる。	16	48%				
		B　どちらかといえばあてはまる。	14	42%				
		C　どちらかといえばあてはまらない。	3	9%				
		D　あてはまらない。	0	0%				
		ふるさと三国に誇りや愛着があり、地域に役立つことをしたいと思う。	計452人		A+Bが88%	91%	生徒	
		A　あてはまる。	199	44%				
		B　どちらかといえばあてはまる。	197	44%				
		C　どちらかといえばあてはまらない。	41	9%				
		D　あてはまらない。	15	3%				
		総合的な学習の時間での学習や、三国祭りなど地域の活動への参加を通して、ふるさと三国について理解を深めている。	計452人		A+Bが92%	67%	生徒	
		A　あてはまる。	232	51%				
		B　どちらかといえばあてはまる。	185	41%				
		C　どちらかといえばあてはまらない。	24	5%				
		D　あてはまらない。	11	2%				
		学校は、ふるさと三国に誇りや愛着をもつ生徒を育成するための活動を、できる限り取り組んでいる。（各学年の総合的な学習の時間、三国祭りや地域ボランティア参加等を通して）	計427人		A+Bが83%	67%	保護者	
		A　あてはまる。	136	32%				
		B　どちらかといえばあてはまる。	220	52%				
		C　どちらかといえばあてはまらない。	7	2%				
		D　あてはまらない。	3	1%				
		E　わからない。	61	14%				
		【成果】 ○各学年において、３年間を見通したテーマ設定をして、継続的に取り組んでいるため、生徒のふるさとに対する意識が強くなっていると思われる。 ○２、３年生は、企業訪問、金沢研修、修学旅行を経験して、より広い視野でふるさとに対する考えを深めている。 ○わからないと答える保護者の数は多いが、一定の理解は得ている。 【課題】 ●教職員の評価が95%を下回った。 「ふるさと坂井体験学習事業」の名称や内容を理解しているのか。 ●地域学習、企業訪問等の訪問する場所の確保が難しい。企業訪問の準備が難しいため時期を遅らせることも考えるべき。						
		〈具体策〉 ○今後もこれまで同様の活動を継続していく。２、３年生においてはふるさと三国との関連について、考える機会を設ける。 ○教職員、生徒ともに、「ふるさと坂井体験学習」をはじめふるさと学習の目的・意義の再認識を行い、活動に取り組む。 ○連携可能な地元（徒歩やえち鉄で移動可能）の企業、事業所等の確保や、地域人材、地域の魅力のさらなる掘り起こしを行う。 ○企業訪問を春に行うならば、企業等のリストが３月には欲しいので、市教委へ要望する。 ○これまで同様、学年通信等を通して、保護者に活動を紹介する。						